

## 令和4年度教育研究推進計画

- 1 学校教育目標 高き志をもち、主体的に学び、高め合う生徒の育成
- 2 研究主題 ふるさと甲奴を誇りに思い、多様な人々と協働して、主体的に学ぶ子供を育てる授業の創造～異文化間協働活動と課題発見・解決学習を通して～

### 3 主題設定の理由

甲奴中学校区では、新たに設定した目指す資質・能力である「コミュニケーション能力」「課題を発見し解決する力」「乗り越える力」の共通理解を図り、「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して、令和3年度をスタートさせた。その取組では、「山里から世界へ」を合言葉にしたアメリカス市との交流を中心とした国際交流、郷土学習、地域探求学習などを小中連携で推進してきた。

本校では、新学習指導要領が全面実施された中で、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、本質的な問いを設定する力、授業の中でのファシリテートする力、ICTを活用した授業スキルを高めるための研修を行いながら授業改善に取り組んだ。また、「指導と評価の一体化」の充実に向けて、客観性や信頼性の高い評価を行い、そのことが指導者の授業改善と生徒の学習改善につながることを課題として取り組んだ。英語科においては、本年度の1年生に、英語授業の効果的な指導方法としての5ラウンドシステムを取り入れて生徒の英語力向上を推し進めている。その取組の結果として、2学期末の「主体的な学び」に係る生徒アンケートにおいて、15項目の質問中12項目の肯定率が1学期末より向上した。また、全国学力・学習状況調査では県及び国の平均正答率を、三次市学力到達度検査では市及び国の平均正答率を上回り一定成果が出ている。

令和4年度においては、「学びの変革」をさらに加速させるために、課題発見・解決学習の質の向上、多様な学習機会と場の提供等による「個別最適な学び」、ICTの効果的な活用などによる「主体的な学び」を促す教育活動を研究・実践をしていく。また、小中一貫教育では、地域の関係機関と連携した異文化間協働活動の充実と発達段階に応じた地域行事への参画を推し進め、「ふるさと甲奴を誇りに思い、自ら未来を切り拓いていく子供の育成」を目標として、本主題を設定した。

### 4 研究仮説

- (1) アメリカス市との国際交流などの地域行事への参画や体験活動などを通して、多様な人々と協働することでグローバル・マインドやコミュニケーション能力を高めることができるであろう。
- (2) 各教科等において課題発見・解決学習におけるゴールイメージをしっかりとって取り組むことで、「主体的な学び」を促進させることができるであろう。

### 5 研究内容

- ・ 「コミュニケーション能力」「課題を発見し解決する力」「乗り越える力」を伸ばし、それらを生かした授業づくりを研究し、主体的に学ぶ生徒を育成する。
- ・ 地域と連携した異文化間協働活動として、アメリカス市との国際交流やインターナショナルデイ、E-meeting、英語暗唱大会等の活動を通して生徒の実践的なコミュニケーション能力を育成する研究を行う。
- ・ カリキュラムやルーブリックに基づき、ゴールイメージを持って学ぶ課題発見・解決学習の単元開発を行う。

### 6 検証方法

- 学力分析 ・ 三次市学力到達度検査、及び定期試験等の結果を分析する。
- 生徒アンケート ・ 各種学力調査における質問項目  
・ 授業満足度  
・ 生徒の家庭学習の状況
- 総合質問紙調査 ・ 総合質問紙調査を年2回実施し、教師と生徒の信頼関係と学力との相関を明らかにして授業改善及び生徒指導に活用する。
- 保護者アンケート ・ 保護者学校満足度